

## ものづくり

現地設計・地産・地消の考えのもと、日本のグローバルマザー工場と中国・アジアをはじめとする海外拠点のグローバルオペレーションを最適化し、国内外の幅広いニーズに応える体制の構築を進めています。創業以来培ってきた「ものづくりDNA」を継承するとともに、IoTを活用した新たなものづくりを推進・拡大し、生産性の更なる向上、高品質な製品やサービスの提供により、お客様満足の向上に取り組んでいきます。

### [ものづくり方針]

- IoT/M2M\*を活用した生産革新
- グローバルサプライチェーン改革の推進
- 現場力・生産技術力・人材育成の強化
- 製品の品質向上

\* Machine to Machine。機械同士が人間を介さずに相互に情報を交換し、自動的に最適な制御を行うシステム。



## 2017年度の主な取り組み

### ものづくりIoTを活用した原価低減

ものづくりIoTの基本コンセプトを「原価低減の実現」とし、配線用遮断器などを生産する大田原工場と、自動販売機および冷凍・冷蔵ショーケースを生産する三重工場を「モデル工場」に定め、生産と設備稼働状況、エネルギー使用状況などをリアルタイムに監視するダッシュボードを設置しました。また、ビッグデータ解析技術を活用した設備予兆保全や品質改善に取り組みました。

これらの取り組みの好事例については、社内へ水平展開していきます。



### 生産技術力の強化

ものづくり力の更なる強化のため、標準化・ユニット化により「つくりやすさ」を追求した製品開発を推進するとともに、内製化の範囲を拡大し、付加価値の取り込みを進めました。さらに、従来の組立工程の自動化による生産性向上に加えて検査工程へ自動化を拡大し、品質・信頼性向上にも取り組みました。



板金加工ライン(神戸工場)



プリント基板実装ライン(鈴鹿工場)

### TOPICS

中国における自動販売機の生産能力を向上させるため、大連富士冰山自動販売機社(DFB)が第二工場を建設。三重工場の一貫生産ラインを技術移管するとともに、最新の自動化設備やIoT設備を導入し、生産性を高めました。



DFB 第二工場



自動販売機の溶接自動化ライン

## 人材育成の強化

国内グローバルマザー拠点では、技術・ノウハウの蓄積、および技能五輪や技能グランプリ\*への取り組みを通じ、高いレベルに挑戦できる技術・技能と意欲を持った優秀な人材の育成に取り組んでいます。また、海外ではFMTをインドや欧州などその他地域の生産拠点の品質・ものづくり強化を支援するグローバルリージョナルマザー工場として、現地技術者

向けの教育体系の確立と生産現場リーダーの教育を重点的に実施しています。国内で培われた「ものづくりDNA」を今後も海外拠点へ伝承し、世界どの地域でも、同じ品質・サービスの提供を可能としていきます。

\* 厚生労働省および中央職業能力開発協会、社団法人全国技能士会連合会が共催する熟練技能者が技能の日本一を競い合う大会。青年技能者(原則23歳以下)を対象とした技能五輪と異なり、年齢制限がないため、難易度が高い。

## 今後の主な取り組み

地域完結型生産をベースにした生産革新とIoTを活用した原価低減を推進し、製品競争力の強化を図ります。また、国内グローバルマザー工場が先導し、つながる工場に向けた試験・検査工程の自動化やAIを活用した自律化生産、IoTによる原価低減などの施策に取り組めます。

## 調達

収益力の向上やリスク軽減を図るため、グローバル規模で調達体制を強化するとともに、製品に使用する部材や間接材などすべてのコスト抑制およびCSRに配慮した調達活動の推進に努めています。

### 【調達方針】

- 調達環境の変化に対応した部材確保とコストアップ抑制
- 設計・開発部門、サプライヤーと連携した開発購買の推進
- グローバル見積システムを活用した調達力の強化
- コンプライアンスの遵守徹底



取引先向けグローバル見積システム説明会

## 2017年度の主な取り組み

### グローバル調達力の強化による直接材・間接材コストダウンの推進

素材高騰、需給の逼迫など調達環境が変化するなか、調達部門、設計部門、サプライヤーの3者連携による開発購買活動を拡大し、更なるコストダウンを図るとともに、部品標準化や入手しやすい部材への切り替えなどコストアップの抑制に

も取り組みました。また、全拠点で取得する見積情報を共有できるグローバル見積システムを稼働させ、競争力のあるサプライヤー開拓の効率化にも取り組みました。

### 調達BCM(Business Continuity Management)の強化

当社で定めた調達BCM規定に則り、自然災害等発生時にもサプライチェーンへの影響を迅速に確認する体制を整備

するとともに、調達部材に対するリスクを顕在化させ、事業継続を可能とする情報整備にも取り組みました。

## 今後の主な取り組み

電子部品、ウェハーを中心とした部品需給逼迫の環境下、グローバル見積システムの活用推進、各拠点の部品情報の把握など広く情報を収集することで調達部材の標準化・マルチソース化を強化しています。部材確保、コストアップ抑制、コストダウンに同時並行で取り組み、事業拡大に貢献していきます。